

兵庫県保険医協会神戸支部 研究会のご案内

頭痛の鑑別診断

日時 11月29日(土) 16時~17時30分
会場 兵庫県保険医協会5階会議室+オンライン
 (JR・阪神元町駅東口を出て南へ徒歩7分)
講師 西宮協立脳神経外科病院名誉院長 脳神経内科 **立花 久大先生**
 ※ご来場での講演となります
参加費 無料

頭痛は片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛などの一次性(機能的)頭痛とくも膜下出血、脳出血、脳腫瘍、髄膜炎などによる二次性(症候性)頭痛に分類される。機能的頭痛に関しては診療所で治療すべき頭痛と考えられるが、症候性頭痛に関してはその多くは神経画像を含めた機器による診断が必要となることから病院に送るべき頭痛と考えられる。

一見片頭痛、群発頭痛に見えても脳動脈奇形あるいは副鼻腔炎など症候性のこともあり診断には慎重を要する。一般的に言えば、発熱を含む全身症状、発症1分以内に最強度に達する超急性性の頭痛(雷鳴頭痛)、片頭痛の前兆が長く続くような非典型的な頭痛、頭痛のパターンの変化または最近発症した頭痛、局所神経所見があるとき、頭部外傷、感染、高血圧がある時、などは危険な頭痛と考え病院での精査をすべきであろう。また、高齢者の頭痛は器質的病変を伴っている可能性を常に考えておくのが良いと思われる。出現した時間が分かる突然発症の頭痛、今まで経験したことのない頭痛、一過性あるいは持続的な神経学的異常を伴う頭痛の場合は出来るだけ早くCT、MRIなどの画像検査をすべきである。 【立花 記】

*お問い合わせは TEL 078-393-1807 神戸支部担当 小西・平まで

— 【神戸支部研究会参加申し込み】FAX 返信：078-393-1820 —

来場参加申し込み

地区 _____ 医療機関・施設名 _____

代表者お名前 _____ 参加人数 _____ 人 TEL _____

ZOOMによるオンライン参加申し込み -----

右の二次元コードもしくは下のアドレスからご登録をお願いします。
自動返信メールでアクセス方法等をお知らせします。

<https://x.gd/if2Vy>



兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

392号

2025年11月25日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

第46回総会・記念講演 感想文

アルコール依存症と共に生きる



講演した大谷夏実先生(左)と山口達也氏(右)

神戸支部は10月18日、県農業会館大ホールで、第46回支部総会・記念企画を開催。「依存症と共に生きる」をテーマとし、「アルコール依存と向き合う」について元TOKIOの山口達也氏、「日常診療で依存症かな?と思ったら」について、長田区・にじハートクリニックの大谷夏実院長が講演した。会員・職員201人が参加した。永松栄治先生の感想を紹介する。(2面に23日の総会議事で選出された医科評議員一覧、2025年度活動方針を掲載)

今回はアルコール依存症をテーマとして、実臨床で診察する機会もあり、興味を持って講演を聞かせていただきました。大谷先生の講演は専門外の医療関係者の方々にも理解しやすいように要点をまとめていただき、非常にわかりやすい内容でした。依存症は脳の病気で意志が弱いわけではなく、コントロール障害で回復を目指すこと、治療者が患者に寄り添い信頼関係を育てていくことが重要な役割であるということを改めて学ばせていただきました。

山口さんの講演は、芸能界でご活躍され、その後の大変さ、実体験に基づいたお話でしたので非常に興味を持って聞かせていただきました。講演を聞いて自身の弱さを認め、過去を振りかえり、依存症であることを認め、現在も弱さを自覚し病気と向き合ってコントロールしようとする強い意志を感じました。飲酒のきっかけ、飲酒様式や気持ちの変化、

(2面へつづく)

(1面からのつづき)

その後は飲酒事故を起こし、自分がアルコール依存症であると認めるに至った経過を、自戒を含めて客観的に振り返っておられました。彼が強く訴えていたように依存症は(否認の病)、つまり自分を知る、自分を認めるということが非常に難しい病気です。山口さんは病気を認め、自身の弱さをさらけ出し、さらに変えられるものは自分自身なので変えていこうとしていることが印象的でした。芸能界で成功したために周囲からの好奇の目で見られるであろうに弱さをさらけ出す姿にはとても感銘を受けました。このような講演活動を通じて病気と向き合い、これからも頑張っていかれることを心から応援したいと思います。

【中央区 永松 栄治】

第46回支部総会で選出された評議員 (任期：2025年10月～2027年9月)

評議員

(東灘区) 村上 正治・伊賀 文彦・大槻 智子
(灘区) 後藤美菜子(新)・宮崎都志幸
(中央区) 林 重伸・加茂 統良・鷲尾 隆太・林 宏明・竹村 俊哉(新)
(兵庫区) 小紫 由利・西松 央一
(北区) 大石麻利子・細川 巖
(長田区) 上田 耕蔵・松岡 泰夫
(垂水区) 佐々木 徹・高橋知三郎・三村 純
(西区) 上山 幸治

予備評議員

(東灘区) 山中 昭文
(灘区) 山中 忍
(中央区) 松尾 玲子

<神戸支部 2025年度活動方針>

- 1、企画の性格に応じてオンライン配信も活用しながら、学術研究会、医院経営研究会など会員の要求にそった研究会、事務講習会や接遇研修会など職員対象の研修会の開催に努める。
- 2、新規開業医交流会の開催などを通じ、新規開業医を中心に未入会者への案内を強く組織強化に努める。会員・家族の懇親を深める企画を実施する。また、病院訪問を積極的に行い病院・勤務医の協会活動への参加をすすめる。
- 3、支部活動の活性化をはかり、幹事会への参加を広げる取り組みを強める。
- 4、健康と医療について語り合う会への講師派遣などに積極的に協力する。
- 5、支部ニュースは、インタビューや投稿など会員を主体とした記事作りをすすめ、定期発行に努める。
- 6、震災復興対策では、震災復興長田の会など地域の運動に参加し共同をすすめる。
- 7、各区の社保協など、医療や福祉で共闘する団体への参加協力をすすめる。
- 8、政策部・地域医療部と協力し、地域の病院の統廃合等医療提供体制の維持・充実、国保、介護保険など地域医療にかかわる重要な問題では、情報収集や行政への働きかけなどをすすめる。
- 9、神戸市政問題での運動に参加、協力する。「神戸・市民要求を実現する会」「市民目線で神戸市政を考える懇談会」に参加し、神戸市に対する要求実現運動での共同に努める。

研究会「医院の魅力を伝えるネット・AI活用術」～感想文～

「AI・Web時代の医療機関づくり」



AI活用術を学んだ参加者

講師の河村伸哉先生

神戸支部は9月20日に、協会会議室とオンラインで研究会「医院の魅力を伝えるネット・AI活用術」を開催。河村伸哉先生(株式会社日本経営)を講師に、57人が参加した。丸山真理子先生の感想を紹介する。

近ごろ話題の生成AIは、文章や動画の作成だけでなく、ホームページ作りにも活用されています。私自身も関心を持っていたため、今回の講演会に参加しました。

講師の河村伸哉先生は、医療機関向けホームページ制作を手がけ、マーケティングにも詳しい方です。ご自身の会社でもAIに文章の指示や資料を入力して、質の高い答えを得ながらホームページ制作に役立てているとお話が印象的でした。

講演の内容は大きく二つに分けられます。まず一つは、Google検索で上位に表示されるための工夫についてです。最近「AI検索」の登場により、ポータルサイトへの有料登録の効果が薄れる可能性があるそうです。そのため、自院のホームページを充実させることが大切で、検索されたい疾患名ごとにページを作る、文章量を増やすといった工夫が役立つと教えていただきました。また「どんな患者さんに来てほしいか」を意識して、検索に引かれる言葉を選ぶことの重要性も心に残りました。

もう一つは、予約につながるホームページの作り方です。特に、スクロールした最初の部分に何を書くかが大事であるとのこと。実際の成功例を示していただいたことで、すぐに取り入れられそうなヒントを得ることができました。さらに、新規開業時の公開のタイミングや、AIに文章を作らせる際の工夫まで紹介してくださり、実践的で役立つ内容でした。

今回の講演を通じて学んだのは、患者さんにわかりやすく情報を届けるための生成AIの活用法です。私自身のホームページも、独自性を大切にしながらAIの力を借り、定期的に見直していきたいと思っています。そして同時に感じたのは、どれほどWebを工夫しても、患者さんにまた来たいと思っていただけるかどうかは、結局のところ診療の質やスタッフの温かさ、そして日々の信頼関係にかかっているということです。AIは頼もしい助けになりますが、最後に患者さんの心を支えるのは私たち自身なのだ改めて思いました。

(なお、この文章は執筆後AIにわかりやすくなるよう添削してもらっています)

【明石市・歯科 丸山真理子】